

前期計画の具体的内容

1. 桃園第三小学校、仲町小学校、桃丘小学校の統合

(1) 学校の歴史

桃園第三小学校は、桃園尋常高等小学校、桃園第二尋常小学校から分離し、大正11年に桃園第三尋常小学校として開校しました。平成14年に創立80周年を迎えました。

仲町小学校は、昭和13年に谷戸尋常高等小学校、桃園第三尋常小学校から分離し、仲町尋常小学校として開校しました。平成9年に創立60周年を迎えました。

桃丘小学校は、昭和31年に桃園第三小学校から分離し、桃園第三小学校分校として開校、昭和32年に桃丘小学校となりました。平成9年に創立40周年を迎えました。

(2) 統合校の選定状況

この地域で前期再編の基準にあてはまるのは仲町小学校と桃丘小学校です。

仲町小学校と通学区域が接しているのは、桃園小学校、中野本郷小学校、桃園第三小学校、谷戸小学校です。このうち、桃園小学校と中野本郷小学校は、青梅街道の横断を避けるため除外しました。谷戸小学校については、仲町小学校と校舎が近接していますが、仲町小学校も谷戸小学校も校地が狭いため、双方とも統合新校の設置場所としては適当でなく、これらことから、桃園第三小学校と統合します。

桃丘小学校と通学区域が接しているのは、谷戸小学校、桃園第三小学校、桃園第二小学校、新井小学校、野方小学校です。このうち、谷戸小学校と桃園第二小学校と新井小学校は、学校の位置が遠いため除外しました。残る2校のうち桃園第三小学校と校舎が近接していることから、桃園第三小学校と統合します。

統合新校の設置場所は、3校の中心にあること、校地がこの3校の中では一番広いことから、桃園第三小学校の位置とします。なお、JR中野駅南口で大規模な開発が予定されていますが、この影響を見込んで計画していません。

(3) 通学区域

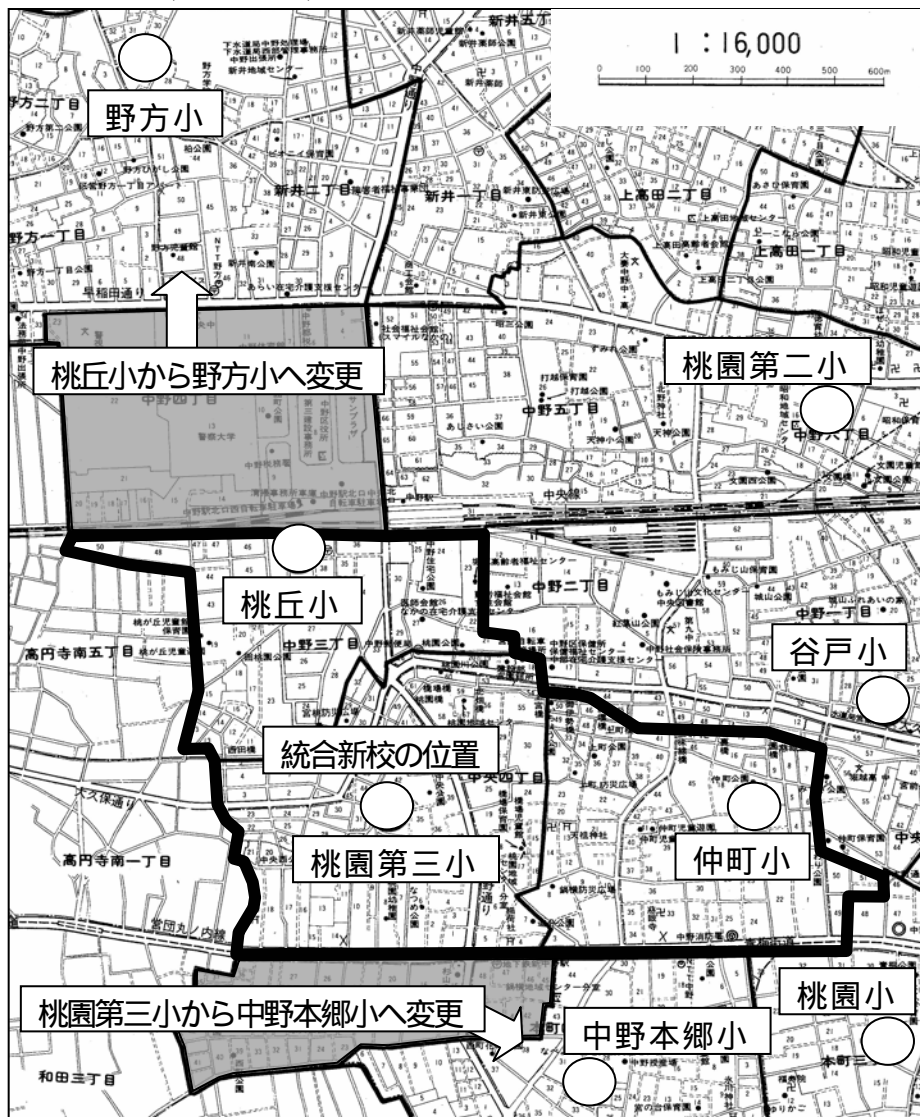
桃丘小学校の通学区域については、通学距離を考え、JR中央線以北の区域の通学区域を野方小学校に変更します。

桃園第三小学校の通学区域は一部が青梅街道の南側にまで及んでいます。また、青梅街道は、この地域では中学校の通学区域境にもなっています。

このことから、幹線道路の横断を避け、小中学校の通学区域の整合性を図るため、桃園第三小学校の通学区域のうち青梅街道以南の地域の通学区域を中野本郷小学校に変更します。このことにより、中野本郷小学校は目指す規模に近い学校になります。

新しい通学区域は、中野駅の南側一体、中央線と青梅街道に挟まれた地域となります。中野二・三丁目、中央二～五丁目が含まれます。中野駅の南口から鍋横地域までをつなぐ中野通りを軸として仲町小学校の区域を取り込む学区となります。この通学区域に関連の強いコミュニティとしては、桃園地域の大半、鍋横地域のうち青梅街道から北と、東部地域の一部からなります。現在の通学区域では、通学にあたって青梅街道の横断がありますが、横断をしないですむようになります。

【図5】桃園第三小、仲町小、桃丘小周辺の通学区域



(4) 障害学級の設置

現在、桃園第三小学校に設置している障害学級(言語・難聴)は、桃園第三小学校の位置に設置する統合新校に設置します。

現在、仲町小学校に設置している障害学級(弱視)は、校舎の収容能力の関係から、この統合新校ではなく、中野本郷小学校に移転します。

(5) 再編の時期

平成20年3月末に桃園第三小学校、仲町小学校、桃丘小学校を閉校し、同年4月に新校を開校します。通学区域の変更と障害学級の移設も同時期に行います。

(6) 統合新校の規模

桃園第三小学校(青梅街道以北)と桃丘小学校(JR中央線以南)と仲町小学校とをあわせて、統合時には491人15学級と推計しています。

なお、通学区域の変更を行う中野本郷小学校は、桃園第三小学校(青梅街道以南)とあわせて、通学区域変更時には488人15学級と推計しています。野方小学校は、桃丘小学校(JR中央線以北)とあわせて、通学区域変更時には469人14学級と推計しています。

(7) 通学距離

桃園第三小学校の位置に設置する統合新校については、最も長い距離で、直線約1.1kmです。通学区域の変更を行う中野本郷小学校については、最も長い距離で、直線約0.9kmです。同じく野方小学校については、最も長い距離で、直線約1.1kmです。

2. 中野昭和小学校、東中野小学校の統合

(1) 学校の歴史

中野昭和小学校は、昭和26年に桃園第二小学校、上高田小学校から分離し、中野昭和小学校として開校しました。平成13年に創立50周年を迎えました。

東中野小学校は、昭和31年に中野昭和小学校、塔山小学校から分離し、中野昭和小学校分校として開校し、昭和32年に東中野小学校となりました。平成9年に創立40周年を迎えました。

なお、東中野小学校の前身に、旧東中野国民学校があります。旧東中野国民学校は、昭和7年に東中野尋常小学校として創立しましたが、戦争により被災し昭和21年に廃校、桃園第二小学校に統合されています。

(2) 統合校の選定状況

この地域で前期再編の基準にあてはまるのは東中野小学校です。

東中野小学校と通学区域が接しているのは、塔山小学校、谷戸小学校、中野昭和小学校です。このうち、谷戸小学校は、接している部分が少ないため、除外しました。東中野小学校自体は校地が狭いため、統合新校の設置場所としては適当ではなく、中野昭和小学校も小規模化していること、塔山小学校では通学距離が遠くなることから、中野昭和小学校と統合し、中野昭和小学校の位置を統合新校の設置場所とします。これにより、中野昭和小学校の小規模化も解消します。

【図6】中野昭和、東中野小周辺の通学区域



(3) 通学区域

東中野小学校の通学区域のうち、JR中央線以南の地域については、中央線の横断を避けられることもあり、塔山小学校に通学区域を変更します。

新設校の通学区域は、地下鉄落合駅を中心として、約700メートルの範囲、北側は一部が西武新宿線に接し、南側は中央線までとなります。東中野三～五丁目、上高田一・三・四丁目を含む区域です。東中野小学校が、中野昭和小学校から分離した経過から見ると、元に近い形に学区を統合することになります。なお、山手通りはその東側の人口が少ないことから、やむをえず通学区域が山手通りをまたぐこととなります。この学区域に関連

の強い地域コミュニティとしては、上高田地域の西部と昭和地域の東部、東中野地域の全域の組み合わせとなります。

(4) 再編の時期

平成21年3月末に中野昭和小学校、東中野小学校を閉校し、同年4月に新校を開校します。通学区域の変更も同時期に行います。

(5) 統合新校の規模

中野昭和小学校と東中野小学校(J R中央線以北)とをあわせて、統合時には360人12学級と推計しています。東中野駅前で大規模な開発が予定されていますが、この影響を見込んで計画しています。

なお、通学区域の変更を行う塔山小学校は、東中野小学校(J R中央線以南)とあわせて、通学区域の変更時には353人12学級と推計しています。

(6) 通学距離

中野昭和小学校の位置に設置する統合新校については、最も長い距離で、直線約1.4kmです。通学区域の変更を行う塔山小学校については、最も長い距離で、直線約0.7kmです。

3. 野方小学校、丸山小学校、沼袋小学校の統合

(1) 学校の歴史

野方小学校は、明治15年に桃園小学校から分離し、沼畊小学校として開校、明治36年に野方尋常小学校と改称しました。平成14年に創立120周年を迎えました。

丸山小学校は、昭和27年に江古田小学校、北原小学校から分離し、丸山小学校として開校しました。平成14年に創立50周年を迎えました。

沼袋小学校は、昭和32年に野方小学校、丸山小学校から分離し、沼袋小学校として開校しました。平成8年に創立40周年を迎えました。

(2) 統合校の選定状況

この地域で前期再編の基準にあてはまるのは沼袋小学校です。

沼袋小学校と通学区域が接しているのは、野方小学校、啓明小学校、北原小学校、丸山小学校、江古田小学校、新井小学校です。このうち、啓明小学校、北原小学校、江古田小学校、新井小学校は、接している部分が少ないため、除外しました。丸山小学校も野方小学校も現に一定の規模を有しており、沼袋小学校全体と統合すると過大な規模になること、沼袋小学校の通学区域の中央に西武新宿線が通っていることを考え、沼袋小学校の通学区域を西武新宿線で分割し、北部を丸山小学校と、南部を野方小学校と

統合します。

統合新校の設置場所は、北部の通学区域の範囲内には丸山小学校しかないため、丸山小学校とします。なお、丸山小学校の既存の校舎では収容しきれない可能性もありますが、校地や既存建物の状況から増築が可能であると考えられますので、必要な増築を行います。

南部については、校地は沼袋小学校が広いものの、校舎の改築期まで20年以上あり、統合新校の規模では既存の校舎に収容できないため増築を必要とします。この場合、校庭部分がかなり狭くなります。これに対して野方小学校は、沼袋小学校と比較して校地自体は狭いものの、第一種中高層住居専用地域にあり、間もなく改築期を迎えるため、一定の高層化を図りつつ全面改築を行うことで、可能な限り校庭を確保しながら望ましい学校がつかれると考えられます。また、統合新校の通学区域のほぼ中央に位置することから、野方小学校の位置を統合新校の設置場所とし、校舎の竣工後に統合することとします。警察大学校跡地で大規模な開発が予定されていますが、この影響を見込んで計画しています。

(3) 通学区域

この統合による通学区域は、北側の新設校が丸山小学校と沼袋小学校の学区域のうち西武新宿線より北側の部分となります。南側の新設校は、野方小学校と沼袋小学校の通学区域のうち西武新宿線より南側の部分と、桃丘小学校の通学区域のうち中央線から北の部分(中野四丁目)となります。沼袋小学校が野方小学校、丸山小学校から分離して開校した経過から見ると、元に近い形で学区域を再編することになります。

北側の新設校は、北は練馬区に接し、丸山一・二丁目、江古田四丁目、沼袋三・四丁目、野方四丁目を含みます。この通学区域に関連の強い地域コミュニティとしては、野方地域の北部と沼袋地域の西部の組み合わせとなります。

南側の新設校は、中野駅の北西部一帯となり、西武新宿線南側から中央線北側までとなります。野方一～三丁目、沼袋三丁目、新井二・三丁目、中野四丁目を含みます。この通学区域に関連の強い地域コミュニティとしては、沼袋地域の南部の一部と野方地域の南部の大半のほか、新井地域の一部と桃園地域の一部の組み合わせになります。この地域では、他の学校に先じて、明治期に沼畠小学校が設置された経緯があり、新設校は学校とともに歩んだこの地域の長い歴史を受け継ぐこととなります。

なお、これら統合新校及び隣接する学校の通学区域には、環七通りを跨ぐ地域があることから、今後、計画の改定にあわせて、全体的な観点から通学区域のあり方を検討します。